



## 今月の野菜紹介

# ジャガイモ

### ◆ジャガイモは石灰不要

野菜を栽培するときは、いつも石灰が必要かと思っている方もいるようですが、ジャガイモは酸性の土壌を好みます。逆に、石灰で酸度矯正を行うと、生育が悪くなったり、「そうか病」が発生しやすくなったりするので、ジャガイモの栽培では石灰を施用しません。

### ◆水はけを考慮して

ジャガイモは、水はけのよい土を好みます。一方で、ジャガイモを栽培するときには、土寄せを行うこともあり、定植溝を掘って定植するのが一般的です。そのため、土壌水分の影響を受けやすく、水はけが悪いと収量が低下したり、イモの肌が荒れたり、時にはイモの腐敗に繋がることもあります。出来るだけ水はけのよい場所を選び、定植溝を深くしすぎないように気をつけます。

### ◆最上部に開花後、徐々に黄化するように

ジャガイモは、あまり肥料を必要としない作物です。堆肥や肥料をやりすぎると、

株は大きいものの、十分な収量が取れなかったり、味が悪くなったりすることもあります。

樹勢を判断するに



は、花の開花位置がポイントです。ジャガイモの花が、株の一番頂部で咲くというのが理想的ですが、花の位置を越えて株が生育する場合は明らかに肥料が多い証拠です。

また、開花後は、下葉から徐々に黄化していく程度で十分です。肥料が多いと黄化が遅れるので、追肥の量には注意をしましょう。

### ◆掘り遅れは形が悪くなる

相談の中で、「掘ってみたら生姜のように形が悪かった」という声をよく耳にします。これは、「二次生長」という現象です。ジャガイモは、冷涼な気候を好む作物のため、生育後半に気温が上昇するとイモの肥大が停止します。このタイミングで収穫をすれば問題ありません。しかし、畑に放置しておく、一時的に気温が下がった時にイモの肥大が再開することがあります。部分的に肥大してしまうため、

コブが出来るのです。

「まだ小さいからもう少し置いておこう」と掘り遅れると、このようなイモが増える傾向にあります。



また、気温低下が引き金になる傾向があるので、平坦部よりも中山間地の方が発生しやすく、くれぐれも掘り遅れには注意してください。

## 知っておきたい病害虫

# そうか病

### 【症状】

そうか病は、ジャガイモの表面に大きさが不同で周辺部がやや隆起し、中央部がやや陥没した淡褐色～灰褐色のかさぶた状の病斑を形成します。病斑下の組織は淡褐色を呈し、わずかに腐敗します。収量自体には影響することはないですが、多発する



と食用としての価値が大きく低下してしまいます。

土壌性病害なので、病原菌は土壌中に生存して土壌伝染するほか、種イモ伝染もするといわれています。また、気温が高く、乾燥しやすいほ場で、土壌PHが中性に近づくほど増える傾向があります。

一方で、「粉状そうか病」という病気もあり、こちらはそうか病とは真逆で、酸性土壌で排水の悪い所で発生するものもあるので両者に注意をする必要があります。



### 【主な対策】

- 土壌が中性寄りになるほど発生しやすいので、石灰は施用しない。
- 土壌伝染をするので、発生したほ場では連作をしない。
- 発生してからは手遅れなので、発生が予想される場合は土壌処理の殺菌剤を施用する。

- ・ネビジン粉剤
- ・フロンサイド粉剤 など

※適用内容は品目によって異なりますので確認の上、使用してください。